

「これから」の 地域づくりを一緒に考える 地域活動座談会

いろいろユニークな取り組みをされている町内会・団体の方にお集まりいただき、日頃活動されている中での問題点などをお話しいただくとともに、それに対する解決策や地域活動の展望などを語っていただきました。

若い人たちを巻き込む。 これからのために一番大切なこと。

司会:いろいろと先進的な地域活動や取り組みをされている方々にお越しいただいております。本日は、その活動の中で、苦労した点や問題点などをお話しいただき、他に活動されている方々の参考にさせていただければと思っております。まずは、阿部さんより、お話しください。

阿部:町内会の活動において一番問題だと考えているのは、若い世代を取り込めていないということです。もちろんこの町内会でも町内会長を始めとする役員が頑張っておられるわけですが、後輩たちが養成されていないということが大きいと思っています。この問題を解決するために、八木山南連合町内会では地域課題解決の実行部隊とし

て青年部を作らせてもらいました。10年近く部長としてやらせていただき、私も60代ですが、今も情熱を持ってやっています。

高橋:今、皆さん昔よりずっと若いですから、60代の青年部というのは魅力的で、斬新ですね。

阿部:地域の課題を考えていくために、いろいろと積極的に提言しています。今では連合町内会からも青年部は信頼されていると思います。

高橋:若い方に参加していただくのは、本当に難しいですね。将監は18の町内会・自治会があり、特に県営住宅には比較的若い子育て世代が多いのですが、この地に永住するという意識は少ないですから、自治会への参加も積極的ではありません。高齢化が進んでいる町内会も工夫していかないと運営自体が難しい状況にあります。「育む会」では、子育て



八木山南連合町内会
青年部長

阿部 利美氏

連合町内会内に青年部を結成。災害対策など地域課題を解決する実行部隊として地域に大きなうねりを作っています。

吉成学区連合町内会会長

伊藤 喜郎氏

市民センターの交流会で集まった地域の40団体をもとに、子育て、福祉、防災のネットワークを構築しています。

花壇大手町町内会会長

今野 均氏

様々な団体との連携により、「まちなか農園」を整備・運営。畑のパワーを活用して新しい地域活性に取り組んでいます。

「将監沼の自然」と
ふれあいを育む会事務局長

高橋 節子氏

町のシンボルである将監沼を整備する町内会と住民による組織を設立。地域の交流の拠点として活用しています。

て支援の一貫として、夏休みなどの休日を利用して子供たちが自然の中で遊べるように「プレイパーク」を開催しているのですが、親子で参加されるのはとても少なく、児童館としての利用が主になっていますね。公園の下刈り、清掃活動も私たちの感覚ですと暑くならない朝8時頃からと思うのですが、休日、若い方はまだ寝ている時間のようです。活動時間を含め発想の転換もしなければならないと思います。できあがった仕組みの中に入ってくるのも若い方は抵抗感があるようです。役員の意識を変革して、入りやすい雰囲気を作っていかなければならないでしょうね。次の世代への流れを作っていかなければならないと思っています。

伊藤:うちの町内会でも朝が早いとだめで、夜の会議が多くなりました。生

活スタイルがまちまちなので、集まる時間の設定も難しいですね。若い方たちは趣味趣向が多様化しているので、それに対応していかないといけないんでしょうね。

今野:町内会という枠組みを外そうということにしています。外から人を連れてきています。外には一生懸命やろうとしているNPOやボランティアの方もたくさんいます。そういう方に実践の場を提供すると来てやってくれます。問題を投げかけると自分たちで考え工夫してやってくれます。よそ者だからと言って排除しないことです。外のつながりを大切にしています。

また子ども会と連携することも大切です。子どもをどう喜ばせるかということを考えれば、子育て世代のお母さんも来てくれます。

活動を円滑にすすめるために、組織をどうまとめたいか。

司会: 地域活動にとって、組織の運営が大切なことになると思うのですが、皆さんは組織をうまくまとめるために何が必要であると考えますか。

伊藤: 組織をしっかり機能的に分けて、部門別に責任者を付けることが必要です。会長だけが全責任を持つというのでは組織は成りたちません。部門別・職種別の責任者を作ってフォローしあっていくということが大切です。

そして問題意識をしっかりと共有することが大切です。そこから足並みのそろった地域活動は始まります。どこの地域も問題を抱えています。それを掘り起こすか、取り組むか、あるいは伏せておくか、の違いです。地域の中に問題を強く提起してくれる人間がいないとだめでしょうね。

町内の中でも問題の提起の仕方によって、町内会だけのつながりから、趣味の会や体育の会など地域の各種団体などのつながりも必要になります。違った意味での交流もできると思います。

阿部: 組織を円滑に運営していくためにも、地域の人材を育成しておかなければなりません。5年後、10年後を見据えて先手を打っておかなければいけません。視野を広く持てるかどうかですね。

今野: うまく町内会をまとめるためにも、会長には賛同者が必要です。自分が会長になる時、役員を8人増やし



副会長にしました。私より年上の方も何人かいますが、綿密な意志の疏通ができています。副会長が自主活動を提案して、三役会で調整します。そこで了解が取れば、副会長の責任のもと自由にやっていいということにしています。

高橋: 副会長さんが8人もいらして自主性を持って組織が回っているのなら素晴らしいですね。

阿部: 私は、個人的意見として会長職は、3期の6年ぐらいがいいと思います。6年が来たら、交代できるように次の人材を育成しておくべきです。よく会長さんが「替わってくれる方がいなくて大変だ」と言いますが、町内会に住民がどんどん入ってきてくれる地域づくりが必要です。すべてを抱え込むと自分だけ苦しいことになります。三役に負担のかからない仕組みづくりが必要です。

司会: 町内会長におんぶにだっこではない、みんなでやろうという雰囲気づくりも必要になるのかも知れません。

地域の人材をどう見つけ出し、どう参加してもらうか。

司会: 地域にはいろんな素晴らしい人材がいらっしゃると思います。その人材にどのように出会い、どのように参加してもらうか、というのも地域活動を活性化し、より有効なものにしていくために必要なことだと思いますが、どのような形で地域の人材を引き出されていますか。

伊藤: 地域の人材の掘り起こしは難しい問題です。うちの場合は、市民センターで交流会を開催し各種団体に来てもらうという方法を採用しました。まずは、『顔見せ』から始まらないとだめです。最初から『お願いします』のような頼み方は、先方にも重荷を持たせません。きっかけづくりが大切です。楽しくこの土地で住みたいという目的は同じですから。同じ仲間として、積極性を身に付けていくことが必要です。

高橋: 地域に大学の先生がいらっしゃいますが、気軽に活動に参加していただいており、お一人は物腰がとても柔らかで総会の議長やご自分の体験をもとに研修会を開いていただいています。歴史研究の先生には、「ふるさと探訪」の講師などの取り組みをしていただいております。地域の方の力をお借りするということが大切ですね。

阿部: 地域の人材を見つけて出すためにも、住民の名前と顔を覚えることが大事です。顔見知りになれば、地域活動に参加してください、ということも言いやすくなります。

高橋: 定年退職された方で、それまでは奥さんまかせにしていた地域のことを積極的にやろうという方が増えてきています。そういった方が輪番制の役員の任期が終わっても何かの役員として引き続き町内会に留まるようにすることが必要なんだと思います。

地域にも温度差がある。だからこそしっかりPRして理解してもらう。

司会: 次世代の担い手を作っていくためにも地域にしっかりPRしていくことが大切だと思うのですが、そのあたり地域へのPRをどのようにされていますか。

今野: パンフレットやチラシなどが必要なんだと思います。カラー印刷なども活用しないとだめですね。若い方に頼むことも必要。うちは広報部を作ってPR活動をしています。全戸に配布は難しいので、回覧したり、掲示板に張ったりしています。

阿部: チラシの表現方法というのがすごく大事。ポイントをつかんで『青年部は〇〇の検討に入りました!』というようにプロジェクトの途中段階をどんどん表に出していきます。大切



なポイントはカラーにして、若い方々にデザインをまかせるべきですね。町民が無関心だということであきらめるのではなく、情報で引きつけていくという発想が大切です。実績ができて、感謝されると、若い方々もますます頑張ります。

今野:しっかり問題に対応してあげないと地域住民もだんだん問題として提起しなくなります。逆に問題を解決してあげると、じゃあこれもお願いしますということになります。住民には問題があればいつでも私に言ってくださいと言っています。ハチが出て困るということでも、しっかり対応することが大切です。

ふるさとと言える場所が好きだから、もっと地域を良くしたい。

司会:町内会の活動は、ここまでやらなくちゃならない、というラインがあるわけではありませんよね。そういった中で皆さんが精力的に地域活動をされている、その突き動かすものというのは何ですか。

今野:地元愛ですかね。例えば、自分たちの取り組みに対して子どもたちが『ありがとうございました』と書いてくれる。そういうメッセージをもらうと、よし次も頑張ろうという気になります。

伊藤:私の場合は誇れる街にしたいということでしょうか。子どもたちがもっと誇れる街にしたい。別に高尚なテーマがあるわけではなく、楽しい、安堵できる街にしたいですね。

阿部:もちろん70代80代も大切ですが、

経験が豊富になってくると、これをやったら大変だと言うことがわかってきます。ですから、地域を突き動かすのは40代50代です。苦しくたって乗り越えていく年代層として、地域のために頑張っていきたいと思います。

高橋:私の場合、40代の頃は自分の事で精一杯で、正直地域のために何かをしようとは考えていなかったですね。活動に携わっていくにつれて、地域のことを先輩達が永年やってくださって今があるということに気づいてきました。何かに携わって恩返ししていきたいと思うようになりました。『将監沼がきれいになったね』との地域の方々の声や子どもたちの感謝の感想文を頂いたりすると、頑張ってくださいている皆さんの励みになりますし、やりがいも感じますね。

司会:少子高齢化が進んでいて町内会も運営が難しい時代になっています。しかし、そういう時代だからこそ次の世代に輪を広げながら、日頃の活動を続けていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございます。



事例集

- 01 「八幡社の館」
～八幡社の館運営委員会～
- 02 「吉成地区地域懇談会」
～吉成地区～
- 03 「青年部による地域課題解決」
～八木山南地区～
- 04 「子ども安全パトロール活動」
～南小泉CSN(チャイルド・セーフティ・ネットワークス)～
- 05 「栗っこネットワーク」
～栗生地区～
- 06 「まちなか農園藤坂」
～花壇大手町町内会～
- 07 「先進的な地域防災体制づくり」
～福住町町内会～
- 08 「六七美化一揆連絡会」
～六郷・七郷地区～
- 09 「ふれあい交流花壇」
～土手内若葉町町内会～
- 10 「広報なかだ」
～広報なかだ編集委員会～
- 11 「フライハイおいで」「コミュニティまつり」
～生出地区～
- 12 「マンションの自治会活動」
～ライオンズタワー仙台広瀬自治会～
- 13 「パソコン教室」「介護予防教室」
～燕沢コミュニティ・センター～
- 14 「地域住民主体の話し合い」
～泉ビレジ館地区～
- 15 「将監沼の自然とふれあいを育む会」
～将監地区～